

2018年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

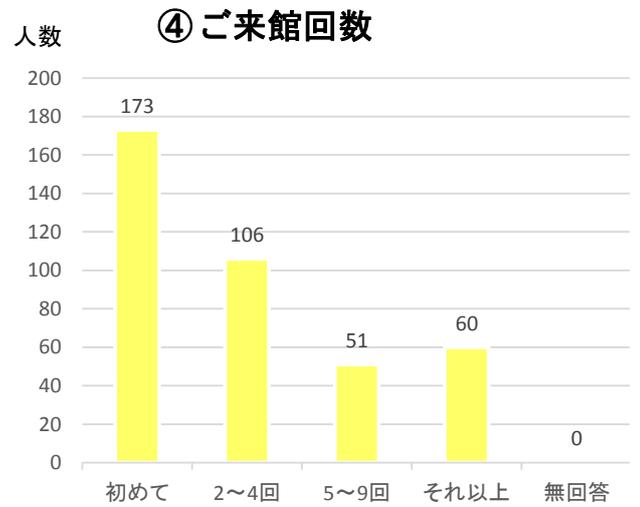
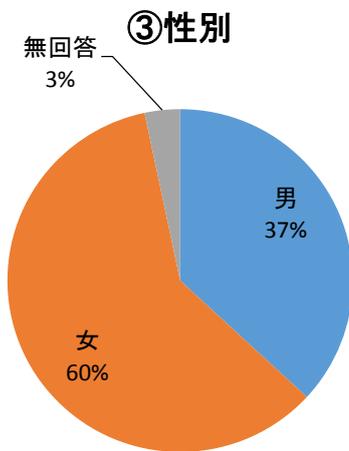
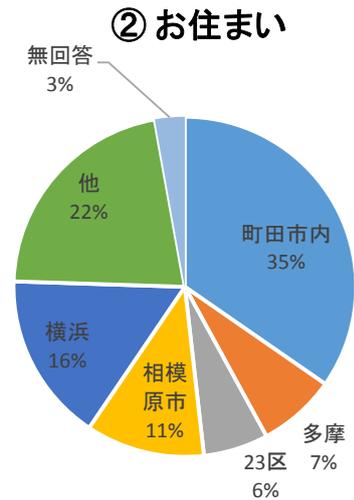
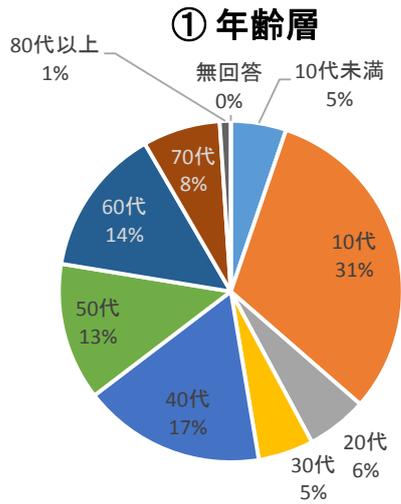
展覧会名	版画キングダム 古今東西の ^{キング} 巨匠が勢ぞろい！			担当者名	学芸係 町村悠香・村瀬可奈			
会期	2018年6月30日(土)～9月2日(日)			開催日数	56日			
協賛・後援・協力	なし							
巡回館	なし							
展覧会概要	版画の王国を冒険するように、地域や時代を超えた様々な版画に出会う展覧会。「自然」、「旅」、「都市」、「祭」、「恋」、「謎」、「苦悩」、「祈り」、「おかえりなさい!」、「舞台裏」の10章で構成した。主な出品はレンブラント、北斎、ミュシャ、棟方、ピカソ、草間彌生など。出品総数は215点(展示替えあり。前期161点、後期159点)。							
ねらい・対象	開館30周年を記念し、当館の収蔵品が概観できるような展示構成とした。版画に対するイメージが覆るような大型作品も積極的に展示し、版画の多様な表現を紹介した。夏休み中の小中学生を対象とした鑑賞ガイドや解説パネルを設置するとともに、版画の技法を紹介する動画(普及係作成)を常時上映し、版画に親しみをもってもらうことをねらった。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	講演会	8月19日(日) <small>※台風のため7/29から延期</small>	30周年記念イベント クイズ! 版画キングダム	アートテラー・とに～	45人			
	0歳からの美術館★家族鑑賞会	7月18日(水)	0歳からの美術館★家族鑑賞会	富田めぐみ	35人			
	夏休み版画体験イベント	7月27日(金)	名画にイタズラ?!	女子美術大学版画研究室	96人			
	バックヤードツアー	8月4日(土)	親子で探検! 美術館バックヤードツアー	博物館学実習生、 当館学芸員	35人			
	作品解説	7月16日(月・祝)	館長によるスペシャルトーク	村田哲朗館長	16人			
	作品解説	7月29日(日)、8月18日(土)	担当学芸員によるギャラリートーク	当館学芸員 村瀬可奈、町村悠香	15人、18人			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生	※観覧料は第2期企画展示室で開催の「インプリントまちだ展2018」と合わせた料金設定とした。 ※観覧者数も第2企画展示室と一体として集計とした。				
	800 円	400 円	400 円					
観覧者数 (現在)	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5289 人	3243 人	8532 人	5054 人	1540 人	355 人	1583 人	— 人
	目標値			6700 人				
主な収入 (現在)	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	3053 千円		— 千円		64 千円		— 千円	
事業経費	・展覧会協力謝礼			90千円		1,966 千円		
	・作品展示撤去委託料			529千円				
	・作品額装委託料			248千円				
	・展覧会ポスター等作成委託料			608千円				
	・ディスプレイ作成委託料			491千円				

主な広報・取材等の講評	<ul style="list-style-type: none"> ・「巨匠たちの造形美堪能」(神奈川新聞、2018年8月6日) ・特集「インスタ映えする美術展～この夏見たいこの美術館この名品」(『月刊美術』8月号)内で紹介 						
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)		
	395 件	4.6 %	35 %	54.9 %	企画の内容	展示作品	展示の仕方等
	主なご意見	別紙のとおり。					
工夫と反省点、改善方法	予備調査	過去の展覧会図録を参考にしながら、これまでにない内容の収蔵品展を目指した。また、鑑賞ガイドの作成にあたっては、普及係の担当学芸員の主導により他館での作成状況を調査しながらふさわしい内容を検討した。					
	作品選択	各分野の担当学芸員が出品候補作品を挙げ、担当学芸員が全体のバランスをみて選定した。調べるうちに該当作品が多く挙がり、当初の予定よりも出品数が増えた。					
	鑑賞ガイドの作成	昨年と同様に小中学生用の鑑賞ガイドを作成した。展示室内を冒険するという展覧会のテーマに合わせて地図を大きく配置し、版画の技法解説や展示室内で取り組むミッションなどを掲載した。基本となるレイアウト、図案は普及係の担当学芸員が作成し、仕上げ、色校正などは委託先の印刷業者、デザイナー、イラストレーターと協力しながら進めた。大人にも楽しんでもらえる内容で、特に版画の技法を擬人化したキャラクターは好評だった。					
	広報	プレスリリースおよびポスター、チラシを作成、発送した。チラシは「版画キングダム」のイメージで金色を使用し、人気の高い草間彌生と人目を引くレジェの図版を用いた。夏休み期間の少し前、7月初旬に市内の全小中学生に配布した。目標入場者数を上回ることができたのは、チラシの宣伝効果があったと思われる。ツイッターは23ツイート、ブログは1件更新した。					
	ディスプレイ	夏休み中の小中学生を対象に、4種類の版画の技法をキャラクター化するなど、明るくポップなデザインを基調とした。作品解説は各分野の学芸員が担当し、通常の解説と小中学生用の解説の2種類を用意した。平易な文章が大人の鑑賞者にも好評だった。作品やキャプションの高さは子どもでも見易いよう、通常より低く設置したが、大人にとっては少々見づらくなってしまったため展示方法については今後検討すべきである。					
	展示撤去	大型作品を複数展示したため、展示作業には想定以上に時間がかかった。委託先の作業員の負担となり、怪我や事故の危険もあるため、展示内容に合わせた作業員・日程の見積りを行うよう気をつけたい。一方で、特殊な展示方法の作品の扱いについて、学芸内で共有し、引き継ぎを行うことができた。					
	イベント	「30周年記念イベント クイズ！版画キングダム」では子どもから大人まで、美術に関する知識がなくても楽しめる内容で大変好評だった。台風のため当初の予定日から日程を延期したが、講師との相談によりスムーズに日程変更を行うことができた。「0歳からの美術館★家族鑑賞会」は多種多様な作品を前に、それぞれに楽しむ家族の姿がみられた。当館では2度目の開催でリピーターもみられたが、広報方法については他部署と連携し広く周知できるよう検討したい。「親子で探検！美術館バックヤードツアー」は、博物館学実習生が事前準備から当日のガイド役までを行い、充実の内容となった。午前の部では進行が一部滞る場面もあったため、次回は予行練習にもう少し時間をかけたい。					
その他特記事項	展覧会を担当した若手学芸員2人にとって、これまでの当館の収集内容を学ぶ良い機会となった。同時に、近年ではかつてのような作品収集が行えないことから、年代によって現代作家の収集には偏りが生じていることも実感した。						

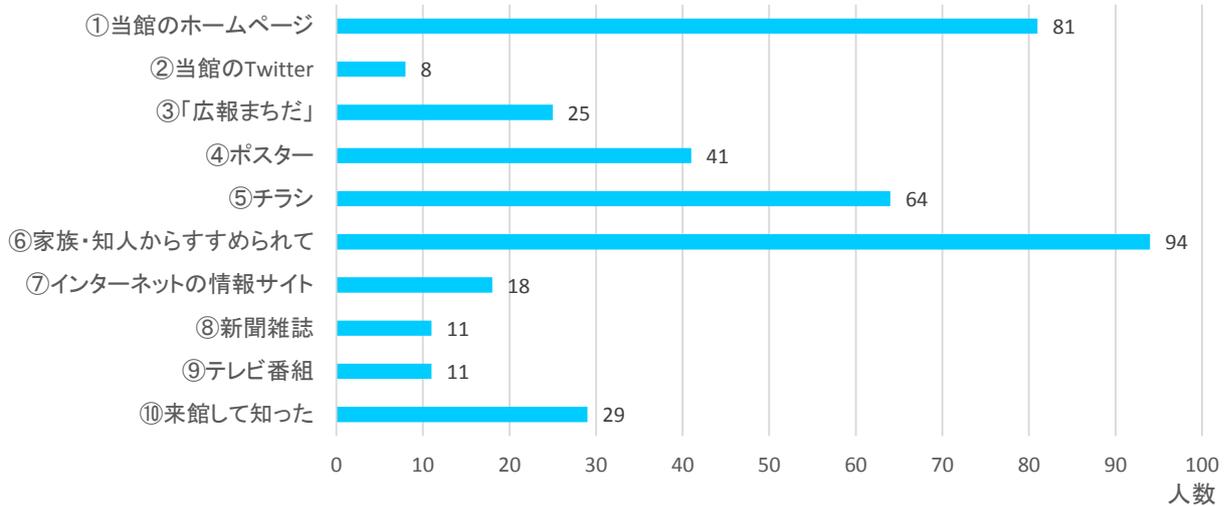
「版画キングダム 古今東西の巨匠が勢ぞろい！」展
アンケート集計結果

開催期間：2018年6月30日（土）～9月2日（日）

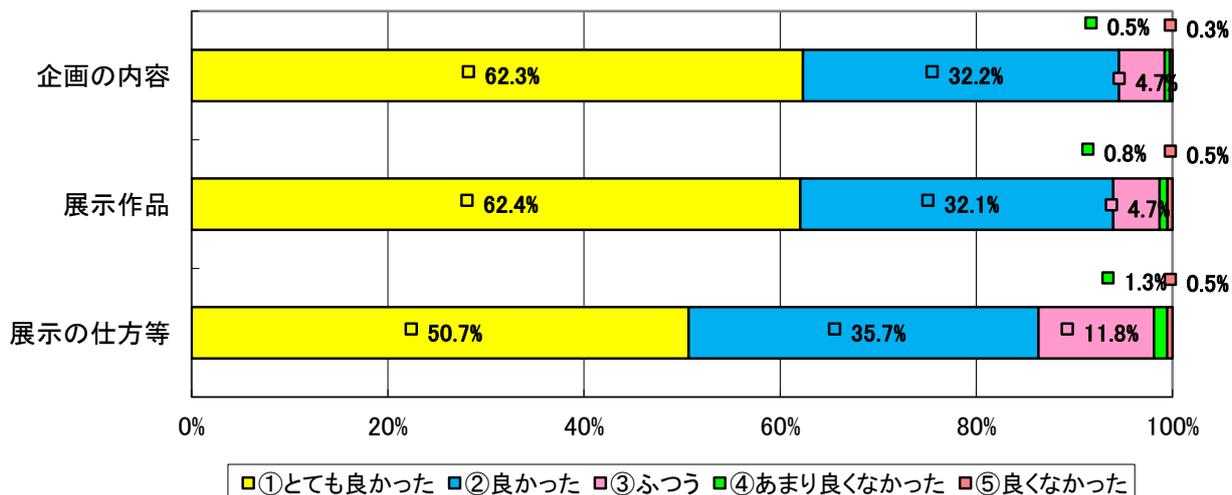
回答者数： 395 人（総入館者数：8,532人 アンケート回収率： 4.6%）



⑤ 展覧会情報の入手



⑥ 回答者の満足度



⑦ 主なご意見・感想

大人(20歳代以上)の意見

◆棟方志功、ピカソ、ミュシャ、草間彌生など有名な作家の版画をみられて感激した。◆有名な作品だけでなく、知らない作品が多くて面白かった。◆版画の作り方がわかる映像が非常に分かりやすかった。この展覧会だけでなく常時見られるようにしてほしい。◆キングダムMAPが小中学生向けだが大人でも楽しめる。◆様々な地域、時代、ジャンルの作品が旅をしているように楽しめてよかった。◆キャプションにキャラクターをいれるなど、子どもが喜ぶ工夫をしていた。◆解説が子供向けに平易な言葉になって大人にも分かりやすかった。◆写真撮影可能な箇所があり嬉しかった。◆小中学生向けのイベントも充実していた。

子ども(10歳代以下)の意見

◆面白い作品、不思議な作品、怖い作品と様々なものが楽しめた。◆好きな作家が見つかった。◆テーマ別に分かれて展示されていてよかった。◆説明が分かりやすかった。◆画家の気持ちを感じることができた。◆夏休みの宿題ができてよかった。

改善点

◆展示室内が寒かったのでブランケットが欲しい。◆写真コーナーがあるとよい。◆駅近くに美術館への案内が出ているとよい。◆キャプションの位置が大人には低すぎて見づらかった。◆子どもの声が騒がしい時があった。

アンケートの集計結果としては、展覧会への満足度が高く、「古今東西の名品を楽しむ」展示内容で、子供向けにターゲットを絞った企画趣旨が上手く伝わっていた。また、有名な作家を目当てに来館し、それ以外の作品も知ってもらえたようである。子供向けに分かりやすい解説にしたことは、子供だけでなく大人からも好評だった。ただしキャプションの位置が低いことや子供の騒ぎ声がうるさいなどの指摘もあり、展示の仕方や子供が多いときの対処方法には改善の余地があるだろう。

また、自由記述欄では、映像による版画の技法解説に対する好意的な意見が非常に多かった。技法にも精通している職員がいる当館の特長を活かすことができた。

来館者構成としては、10歳代、次いで40歳代が多く、女性が6割を占めていることから中学校の夏休みの宿題で母親と子で来館する家族が多かったためだと考えられる。展覧会情報の入手について「家族・知人からすすめられて」が最も多かったのは、子どもにとっては親のすすめが来館動機となるからだろう。ホームページやちらしを見て来館した人も多く、今年から市内小中学校の全児童、生徒に対してちらしを配布した効果が出ている。結果として目標数を1,800人以上上回る大盛況となったのは、設定したターゲットに対して適切な広報を行えたからだと考える。